

# 令和6年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡中央高等学校

校訓

立志・気づき・共生

## 【スクールミッション】

探究する学びと仲間や地域との関わりを通して、学ぶ楽しさを知り、社会で活躍できる学力と豊かな人間性を身に付け、「(立志)夢を夢でおわらせない力、(気づき)いつもだれかを思って考えられる力、(共生)ふるさとのために活動する力」を持った、次代を担い、地域を担う人材を育成します。

### 1 教育目標 (建学の精神)

- 自ら思考し、創造し、自学自律の態度を身につけた人間を育成する
- 広い視野と洞察力を持ち、豊かな人間性と果敢な実行力を備えた人間を育成する
- 自他を敬愛する精神を培い、地域や社会に奉仕し、貢献できる人間を育成する

評価基準	A 達成
	B 概ね達成
	C やや不十分

2 本年度の重点目標と重点事項 生徒一人ひとりに寄り添い、生徒の可能性を引き出す教育活動の推進	自己評価			学校関係者評価	
	今年度の成果と課題	評価 (前年)	来年度への改善点	意見・要望	
(1) 確かな学力の定着と学ぶ意欲・態度の育成	①学習習慣の定着、主体的・自立的に学ぶ生徒を育成する授業実践	生徒満足度調査と保護者学校評価ともに、自主的に学習する姿勢や雰囲気に関する課題があるが、前年度より若干改善が見られた。	C (C)	生徒の学習意欲向上に向けて職員研修を行う。	(1) 自分の考えを発表したり、自ら進んで学習に取り組んだりするなど、生徒の主体的・自律的な学びの育成や学習習慣の定着に向けて取り組んで欲しい。そのためには、生徒・保護者・学校の三者一体の取り組み、特に保護者への呼びかけや協力が必要である。 (2) 生徒の学習意欲の向上に向けて、職員研修などを通じて学校内で議論いただき、改善に向けて取り組んでいただきたい。 (3) 各学科の特色あるカリキュラムに基づいた学習や教育活動が行われおり、高く評価できる。探究学習発表会など課題解決に向けて主体性を育む実践を引き続き取り組んでほしい。 (4) 様々な生徒に対して、これまでの学び方だけでなく、オンラインの活用など多様な学びにより、生徒それぞれに意味のある学力観を持たせ、意欲を喚起させてほしい。
	②ICT機器の効果的な活用の推進と研修、及び「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」等に係る学習内容の研修	ICTに関する外部の研修会に積極的に参加して、教員の指導力が向上し、学習の成果を挙げている。	A (B)	生徒のデータサイエンスや情報リテラシーに関する能力向上を図る。	
	③「指導と評価」の適切な運用と研究	前年度の研修会を受けて、各教科ごとに情報共有を行い、指導と評価に活かすことができた。	A (A)	生徒へのフィードバックについての研修を行う。	
	④普通科、総合学科の特色を活かした探究的な学習の推進	各活動目的を明確化したことで、生徒の意欲が高まり、進路選択やキャリア形成に活かすことができた。探究学習発表会は、学習の成果を全校生徒、教員で共有することができた。	A (A)	探究学習発表会の運営や役割のさらなる改善を進める。	
	⑤特別支援教育の理解を深める研修、及び組織的な支援体制の組織的・機動的な運営の推進	MH委員会を中心に組織的に対応し、支援につなげることができた。	A (B)	支援を必要とする生徒への対応を推進する組織体制を再構築する。	
(2) 生徒の資質・能力を最大限に引き出す教育環境の充実	①キャリア教育総合実践プログラムに基づく系統的なキャリア教育の実践	キャリア体験学習に積極的に参加できた。インターンシップは、進路に影響を受けた生徒が多く、効果があった。	A (A)	引き続き生徒の進路意識を向上させるための事前・事後の指導を徹底する。	(1) 企業や行政機関など外部と関わる取り組みは、生徒にとって生きて働く知識となり、自らの学びや生き方につながっている。先生方の様々な生徒への働きかけやサポートが成果を上げてきている。引き続き外部との連携強化を推進していただきたい。 (2) 生徒や保護者への進路情報の提供や、卒業後の進路を見据えたキャリア体験学習、地域と連携した学習活動は、鶴岡中央高校の特色であり、素晴らしいと考える。 (3) 先生方の指導に対して生徒が高く評価しているのは、先生方の事前の準備や生徒の状況に合わせてきめ細かい指導の賜物であり、先生方の苦勞に敬服します。 (4) 地域連携や探究活動、部活動等、先生方の負担が大ききように思う。デジタル化の推進、会議時間の見直しなど、生徒への対応以外の効率化を進め、生徒と関わる時間を増やす方法を検討してください。 (5) 普通科でも資格の取得が必要と考えます。
	②普通科「キャリア探究(総合的な探究の時間)」、総合学科「産業社会と人間」、「総合探究・課題研究(総合的な探究の時間)」の系統的な教育実践、及び組織的運営	企業や行政機関など多くの外部の方々と関わることで、生徒は多くの学びを得ることができた。	A (B)	外部との連携強化を進めるとともに、生徒自身の調査研究や振り返りの時間を確保する。	
	③多様な進路希望や入試制度、就職試験に対応した計画的・組織的な進路指導・支援の推進	進路情報を生徒や保護者に適宜提供し、進路選択や実現に効果を上げた。小論文と志望理由書の個別指導は効果を上げた。面接指導については計画通り実施した。必要書類の提出が期限間際になる生徒が見られた。	B (B)	進路関係書類が期限間際にならないように、関係教員間で連携しながら事前指導を徹底する。	
	④普通科・総合学科の特色ある教育課程編成の評価・検証・見直し	学科・系列ごとに地域や関係機関と連携し、特色ある活動や学びを広げることができた。	B (B)	教育課程の課題解決・改善に向けた取り組みを推進する。	
(3) 自他を尊重する態度と自律的な行動力の育成	①自他の尊敬を大切にし、社会人としての規範意識、マナーを理解し実践できる生徒の育成	多数の生徒が明るく挨拶を交わしているが、挨拶を返せない生徒も一定数いる。スカート丈など制服の着こなし指導に係る課題がある。	B (B)	社会の一員として必要な規範や身だしなみへの意識を高める。	(1) 挨拶ができる生徒や服装がきちんとしている生徒が多く、規範意識を持って生活している様子がうかがえる。また中央祭の一般公開で多くの来校者があったことから地域に愛されている学校と捉えています。挨拶やマナーの指導を継続していただきたい。 (2) 挨拶をして返事や返ってこない生徒でも、心には響いていると思う。継続した声掛けや学校祭など生徒が認められる場をセッティングして下さい。 (3) 対人関係で大きな問題となることもなく、他人を尊重する気持ちは育まれているのではないかと。中央祭やホームルーム活動などを通して、自立した行動につながっている。 (4) SNSの発達で自己肯定感の低い若者が増えているようです。自分も他人も大切にできる教育は非常に重要なので、先生方から引き続き声掛けや働きかけを行ってほしい。 (5) 主権者教育や消費者教育に関して、多様な選挙運動や政治活動があるので、様々な情報を得るように指導をお願いしたい。
	②人間関係の構築力とコミュニケーション力の育成	生徒が安心して安全に明るく生活できる学校にするため、「いじめを絶対に許さない」「盗難被害を出さない」環境づくりに努めた。	B (B)	発達支持的生徒指導の観点からの取り組みを推進する。	
	③特別活動、部活動、ボランティア活動、校外活動に積極的に参加する生徒の育成と活性化	中央祭は今年度、一般公開を復活させ、来校者は1000人以上となり、初日の校内企画も含め、生徒が成長し非常に充実したものとなった。部加入率は69%と昨年度(66.9%)より微増となった。	B (B)	発達支持的生徒指導の観点から、生徒が充実感や他者との共感が得られるように、生徒会活動や部活動の活性化を図る。	
	④成人年齢の引き下げに伴う主権者教育や消費者教育等の実践	公民科や家庭科など関連教科での学習や生徒課からの注意喚起で意識を高めることができた。	B (B)	市民社会に生きる一員として必要な法教育を引き続き行う。	
(4) 健康管理・安全教育の推進と危機管理体制の強化	①自己の健康の維持・増進、及び、自己管理意識の向上	保健委員による健康観察(データ入力)の呼び掛けにより、健康管理を適切に行うことができた。健診結果を心身の健康管理につなげることができた。	B (B)	引き続き健康観察の習慣化を呼びかけながら、健康への自己管理意識を高める。	(1) 自分の命も他人の命も大切に護り、人間としてのプライドを自律的に保ちうる人間に成長してほしい。 (2) 緊急時の対応などが適切に図られている。日ごろから適切な環境整備と課題への迅速な対応をしていただき、健康管理・安全管理の徹底を引き続きお願いしたい。 (3) 感染症による欠席や学級閉鎖が他校のように多くなかったのは、生徒の自己管理と学校の衛生管理が適切だったからと考えます。 (4) 口腔ケアや手洗いなど、身近にできる対策を引き続き呼び掛けて下さい。 (5) いじめが起きた時の対処を含め、引き続き適切な対応をお願いします。
	②安全・安心な学習環境の整備と清掃活動の徹底	地震・火災、水害を想定して2度の避難訓練と消火器点検を行い、災害時の対応を確認した。安全点検を毎月実施した。清掃活動が不十分な箇所がみられる。	B (B)	生徒が主体的に防災・減災の意識と行動力を身に付ける方策を検討・実行する。	
	③危機管理体制の整備、及び、施設設備の安全点検の徹底と迅速な対応	危機管理マニュアルの周知や点検を呼びかけ、適切に行われた。	B (B)	災害時や緊急時の初動対応が適切に行われるように、必要な機器・道具の操作や体制を再確認する。	
(5) 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取り組みの推進	①ホームページ等による情報発信の充実	行事ごとのホームページ更新や大会成績の垂れ幕作成・掲示など、本校の最新の様子や情報を迅速に発信することができた。	A (B)	より効果的な他の周知方法を検討していく。	(1) 地域への広報活動は、学校の知名度を高める重要な取り組みである。学校ホームページを活用し、適切な情報発信がなされ、魅力的な学校づくりが果たされていると感じた。ホームページは重要な伝達手段なので、今後とも充実をお願いいたします。また、ホームページ以外の多様な発信手段があるので、検討していただきたい。 (2) 地域や外部との連携は、生徒と教師が一体となって取り組み、それを発信している点が中央高校の強みと考える。先生方が意志疎通を図り、スクールポリシーをからめながら、明るい笑い声が響く学校でいて下さい。 (3) 若者との関わり合いが進む中、中央高校は地元志向の生徒が多く、また、一度離れてもUターンする方が多いのは、地域との関わりを大切にしているからだと思います。引き続き地域との関わりを大切にするとともに、これまで以上に広く多くの方々との関わりを持てるように運営してほしいと思います。
	②地域の中学生や保護者、地域社会へのスクール・ポリシーの周知	学校要覧、学校案内への掲載をはじめ、学校説明会などで周知に努めた。	B (B)	スクール・ポリシーの周知と連動した教育活動を推進する。	
	③PTA、同窓会並びに鶴岡市や関係団体、企業等との連携、協働活動の活性化	朝の登校指導に延べ20名の役員参加があった。多くの教育活動において地域や各団体との連携を進めることができた。	A (A)	研修育成部の活動内容を見直すとともに、名称も生徒育成部に変更することを検討・実施する。	
	④校務分掌の整備と活性化	3年目となった現行の校務分掌体制は、特に課の業務遂行の円滑化に効果が見られるとともに、年次の運営も適切に行われた。	B (B)	教員の働き方改革や多様な勤務形態、教員のキャリアアップ・スキルアップを踏まえた校務分掌体制を構築する。	
	⑤令和8年度入試改革に向けた検討	本校のスクールポリシーを踏まえた選抜方法を設定することができた。	B (B)	入学選抜に関する具体的な方法や運営について検討し、実行していく。	